



# 「インプラントと医療安全」

先日のインプラント使いまわし報道から、歯科特にインプラントについての安全性が問われている。近年、保険治療でも医療安全に対する要求度は高くなってきているが、医療安全の意味が患者さんに正しく伝わっているのか疑問である。医療サイドの医療安全に対する正しい認識も、実はこれから構築されていく段階にある。



日本歯科医師連盟評議員 鈴木 龍

は答えている。インプラントに限らず安全な医療はない。無いということを理解するから安全な医療を求めて努力する。しかし努力だけでは医療安全のレベルは上がらない。医療知識を勉強し、ヒヤリハットの分析と対策に組織で取り組まなくてはいけない。

もともと医療安全は、アメリカでの「高度な医療を行っているところ」は、医療安全もしっかり

## 正しい認識 選択基準に

している」とした統計から始まっている。今回の使いまわし事件で被害者となってしまう患者さんの、求めていたのは果たして高度な医療だったのだろうか。安いこと、インプラントの本数を多く行っていることが患者さんの選んだ基準ではなかったか。

医療安全にはお金がかかる。あまりに安いインプラントは医療安全の立場から疑問である。安いことを選択基準にするのは非常に危険である。しかし料金が安いからと言って、高度な医療テクニックを持っているとは限らない。インプラントを成功させるには歯周治療などの基本治療がしっかりと行われていなければいけない。神経の治療や歯周治療は時間がかかるので、インプラントばかりを行うことはできない。本数にはおのずと限界がある。

患者さんのニーズが安いインプラントにあり、インターネットの不確実な情報に頼っている。今後インプラントの医療事故はなくならないだろう。インプラントはしっかりと治療されれば本当に良い治療方法である。

◇ 歯科医療をめぐる現状や課題、最新の治療技術などを日本歯科医師連盟評議員で歯科医師の鈴木龍さんに四週に一回のペースで寄稿してもらいます。

すずき・りゅう 1983年東京歯科大卒。86年、袋井市内にすずき歯科医院を開業し、2004年同市高尾に移転。現在は医療法人社団八龍会理事長、日本口腔（こうくう）インプラント学会員、口腔インプラント

生涯研修センター講師、歯科医師臨床研修指導医など。すずき歯科医院は管理型研修施設及び東京歯科大、愛知学院大など3大学の協力型研修施設として、後進指導に力を入れている。袋井市小川町。53歳。